

研究課題別中間評価結果

1. 研究課題名

人間中心の知的情報アクセス技術

2. 研究代表者名

橋田 浩一（産業技術総合研究所 サイバーアシスト研究センター 副研究センター長）

3. 研究概要

知的コンテンツ（意味構造を明示した情報コンテンツ）の普及によって人間が知的能力を最大限に発揮できる人間中心の知識循環型社会を実現するため、知的コンテンツを効率的に作成する方法と、知的コンテンツに基づく検索や要約などの高品質の情報サービス技術、およびそれらに必要なユーザインタフェースとユーザモデルに関する技術を研究する。これまでの成果は、知的コンテンツの効率的なオーサリングの方法の考案、知的コンテンツに関する高性能の情報検索システムの開発などである。

4. 中間評価結果

4－1. 研究の進捗状況と今後の見込み

意味構造に基づく情報検索技術の実用化を視野に入れ、当初の計画に沿って研究が順調に、また戦略的に展開されていると考えられる。QAによって文章内容を意味的に豊富にし、また論理的に明確なものにする支援システムは、教育支援ツールとして非常に有用なものが作れるだろう。これは当初の予定になかったことであるが、本研究の最大の具体的成果となる可能性がある。

4－2. 研究成果の現状と今後の見込み

セマンティックオーサリングシステムなど、意味構造に基づく情報検索を実用化しようという構想の下に、有用なシステムが生み出されている。また、国際標準化への貢献、知的財産の積極的な活用等、総合的な取り組みの中で、着実な成果が出始めている。

今後、意味構造に基づく情報検索や発想支援ツールなどの具体的成果の実用化、更には普及に向けての努力を期待したい。面白く、多くの人が利用したくなるシステムとして社会に受け入れるよう、より一層の努力を望みたい。

4－3. 今後の研究に向けて

これまでの個別的な研究テーマの成果をまとめて、目指す「知識循環型社会」の一つの形を具体的な形で社会へ提示することを目標にしてほしい。また、どうすれば世の中にインパクトのあるツールになるか、普及させるための仕掛けは何か、真剣に検討することを期待する。

4－4．戦略目標に向けての展望

セマンティックオーサリング機能を持ったワードプロセッサや教育システムなど自己完結したシステムとしてまとめれば、社会に広く普及する可能性をもっている。論理的な文章を作るための支援や発想の支援などに非常に有効であり、将来の製品化を多いに期待したい。

4－5．総合的評価

知識循環型社会の実現に向け、独自の情報アクセス技術の提案と戦略的実現方策の展開を図りつつ、順調な進捗が認められる。また、世界標準化に積極的に取り組んでおり、世界規模の市場を想定して技術開発に取り組んでいる点も高く評価でき、今後の研究の進展に期待したい。

高度メディア社会の生活情報技術として知的情報アクセスが普及し、情報が効果的に活用されることが期待される。